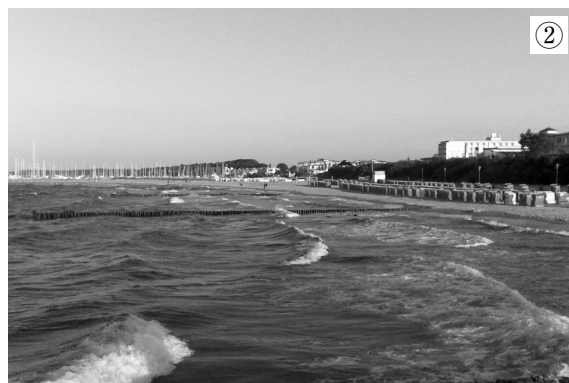




ミュンヘン便り ～夏休みの過ごし方～

ブラジルでのサッカーのワールドカップが日本ではとくに過去の話となった今でも、ドイツでは「チャンピオン」にかなり多くの人がうっとりしています。通常であれば試合開催期間終了後には町中から消えるドイツ国旗も、家々の窓や門、車、ショーウィンドウなどあちこちで誇らしげにはためいています。友人の一人は「僕達はチャンピオンだ」としきりにつぶやき、「朋子もちょっとチャンピオンだよ。ドイツに住んでるからね。」などとチャンピオンのおすそ分けをくれる始末。ドイツのサッカーチームがブラジルから帰国する際には、ベルリンのブランデンブルグ門の前の広場で凱旋パレードを5時間以上待つ人々のすぐ上を、彼らを乗せた飛行機が飛ぶように、わざわざ飛行機の航路が変更されました。

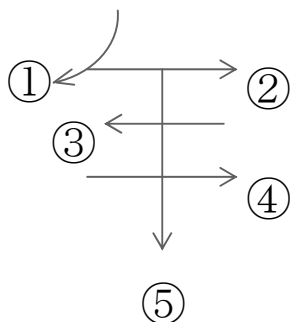
ワールドカップが終わっても、7月のヨーロッパはスポーツイベントがいっぱい。トゥール・ド・フランス、ウィンブルドン、フォーミュラ1、などなど。そして8月にはバカンスシーズンに突入し、多くの人が太陽を求



めて南下します。しかし、8月にだれもがバカンスに出かけるわけではありません。同僚のMは、日本学を専攻する修士の学生で、論文の締め切りに向けて仕事の合間に執筆にいそしむ日々です。ドイツでは、修士課程の最終学年になると授業はほとんどないので、たいいていの学生は働きながら仕事の合間に修士論文を書きます。

夏休みを返上して修士論文にいそしむ同僚Mのテーマは、「日本における働く女性の生き方」。広範囲な問題を含む歯ごたえのあるテーマですね。事務所のランチタイムでは、日々いろいろな質問が出ます。先日は、「オキョクサマ」とはなにかと聞かれました。「お局様」のことです。日本語の読み方は難しいですね。しかし同僚Mの日本語力は相当高く、会話だけでなく日本語を書くことも正確にこなすので、いつも感心します。それにしても新鮮なのは、彼女の漢字の書き順です。例えば、漢字を構成する横棒。日本人であれば、左から右に書くように小学校で習いますね。この背後には、毛筆で漢字を書く場合に美しく書くための書き順を身につける、とい

う事情があるのではと思います。同僚Mにとって大事なのは、最も無駄なく効率的に書くこと。例えば、「年」という漢字の書き順は以下ようになります。つまり、真ん中の横棒を右から左に書くのです。独創的な書き順ではありませんか？



同僚Mだけではありません。夏休みを棒に振って働く意欲がある高校生が一人、8月中に弊所で実習する予定です。この高校生は、夏休みにただ寝るだけではもったいない、弁理士という職業に興味があるので、弊所で弁理士が何をするのか見るために夏休みの間に実習に来るといいます。あまりにも模範的なので、同僚Hは「せっかくの夏休みに遊びたくないの？」という質問を面接時に率直にぶつけていました。弊所でも過去に一週間、高校生がインターンをしました。しかしこの時は、彼女の学校の教育課程の一環として社会で一週間働くことが義務付けられていたのですが、今度の高校生は自発的に夏休みを返上して働きたいといっていますから、たいしたものです。

高校生や大学生が企業や事務所でインター



ンをすること事態は、ドイツでは一般的です。もちろん、受け入れ側の負担が大きいことはお察しのとおりです。学生たちを一週間や一ヶ月の単位で受け入れたところで、特許事務所では彼らに出来る仕事は皆無に等しいにも関わらず、彼らにできるちょっとした仕事を絞りだすのは大変です。それでもなるべく受け入れようとするのは、若い人たちに社会経験を積む場所を与えるのが企業や事務所の一つの義務である、という認識・考え方がドイツにはあるように見受けられます。

さて、皆さんは夏休みをどんなふうにご過ごされますか？ 山、それとも海？ あるいは・・・？ 写真1はバルト海のかもめ。写真2はバルト海。写真3はバルト海沿岸に広がる大平原。写真4はハンブルグでエルベ川を航行する帆船。では楽しい夏をお過ごしください！

筆者紹介

稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。